



あおもり 町連だより

第216号

令和2年8月
(2020年)

青森市町会連合会

TEL 017(734)2584
FAX 017(734)2587

第9代会長に齊藤裕一郎氏を選出

令和2年度定時総会 書面議決にて全議案を可決

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、青森市町会連合会は、当初、5月28日にホテル青森で開催を予定していた令和2年度定時総会を書面による議決に切り替えて実施、令和元年度事業報告はじめ全議案を原案通り可決、第9代会長に齊藤裕一郎氏（横山町町会長）を選出しました。

書面議決では、総会構成員371人に議案書を送付、325人から回答があり、6月23日に回答の集計を行なった結果、議案第1号令和元年度事業報告、議案第2号令和元年度収支決算、議案第3号令和2年度事業計画（案）、



齊藤裕一郎新会長

議案第4号令和2年度収支決算（案）、議案第5号役員改選—のすべての議案が、過半数の賛成をもって可決・承認されました。

議案第5号の役員改選（①会長の選出②監事の選出③副会長及び常任理事の承認）では、新会長に齊藤裕一郎氏を選出、次の方々を新役員に選出しました。

□副会長＝松本勝義（鴨泊）野呂龍一（久須志町）

加藤恒雄（浜田ニュータウン）高森泰彦（清水）
神保修平（堤橋）

□常任理事＝鈴木茂（赤坂）佐々木重光（住良）
櫻田文信（野木）嶋田肇（伝馬町）片桐孝（広田町）
葛西房子（女性部会）

□監事＝松本功（はまなす）佐々木敦子（新生町）
工藤喬也（勝田中央）

この他、24町会から①市町連会長杯ゴルフ大会（13件）②連合会規約（6件）③収支決算案（4件）④事業計画（3件）⑤弔意及び見舞規定（2件）—などについて計37件の意見・要望が寄せられました。

地域力の掘り起こし推進 令和2年度事業計画

基本方針

青森市町会連合会の目的である「各町会の連絡協調と住民の福祉増進を図り、豊かで住みよいまちづくり」のため、活動の推進に努めて参ります。

近年は、少子高齢化社会の進展と人口減少などにより、地域を支えるチカラが年々脆弱化してきており、地域力の強化は喫緊の課題となっております。

このため地域の組織がお互いに連携し合い、健康で明るく安心な暮らしができるよう地域力の掘り起こしを推進して参りたいと考えております。

（2面へ続く）

紙面紹介

- 2面 令和2年度事業計画
退任町会長、優良町会員を表彰
- 3面 除排雪で市が町会長にアンケート
- 4面 令和元年度市政懇談会
- 5面 青森市総合計画の概要
令和元年度交通安全施設整備
町会員にごみ袋配布（褒懸団地町会）
- 6面 令和元年度理事研修会
町会誌を発刊（横山町町会）

重点目標

青森市町会連合会は「重点目標」の骨子を、町会連合会、地域協議会、地区連合町会、町会が組織一丸となった活動を原点とし、「ふれ合い・助け合い・支え合い」の地域みんなのチカラで、地域住民みんなが明るく笑顔で過ごせる町会づくりを推進することとします。

- (1) みんなで考え、みんなで参加し、みんなの力でまちづくりを進める
- (2) 地域への誇りと愛着心を持ち、明るく笑顔で暮らせるまちづくりを進める
- (3) お年寄りなどが安心して暮らせるまちづくりを進める
- (4) 安全で快適な暮らしができるまちづくりを進める
- (5) 健康づくりの盛んなまちづくりを進める
- (6) 青少年が健やかに育つまちづくりを進める
- (7) 文化の香りがするまちづくりを進める

推進事業

- ・青森市町会連合会会長杯ゴルフ大会の開催
- ・広報「町連だより」の発行（町連だより編集委員会）

総務部会

- ・総会、役員会、理事研修会、市政懇談会、新任町会長研修会等の開催
- ・各部会との情報共有について検討会設置
- ・市町会連合会の足跡事業の構築

地域振興部会

- ・自主防災組織の組織率アップを図る
- ・雪処理事業の充実化の促進
- ・歩道のバリアフリー化の実現
- ・電柱の地中化推進

交通・防犯部会

- ・高齢者と子供を守る運動の推進
- ・交通安全関係者会議への参画及び協力
- ・交通安全協会事業と連携した活動の推進
- ・防犯運動団体等との連携した活動の推進

環境部会

- ・ごみの減量化と資源再使用の促進
- ・地域花いっぱい街づくりで、環境美化運動への協力
- ・プラごみ等の海洋汚染防止の海岸清掃等地球温

退任町会長、優良町会員を表彰

青森市町会連合会は、表彰規定に基づき、令和元年度内に退任した町会長18人と、町会の運営に協力し、他の模範となる優良町会員146人を表彰、それぞれ感謝状、表彰状、記念品を贈りました。

（敬称略、カッコ内は町会名、勤続年数）

□20年以上勤続し退任

故・阿部正男（出町、41）

□5年以上20年未満勤続し退任

故・渡辺三郎（造道、18）和田操（三本木、13）最上勉（鬮懸団地、6）新山民雄（けやき、10）扇野繁（栄町、12）小林岩雄（鬮懸、9）工藤壽雄（新田、9）故・柴田昇榮（大湯、5）小山誠治（三内第三、6）高橋俊夫（新城大坂、6）倉内克己（鶴ヶ坂、12）中嶋紘（希望ヶ丘、12）樋口耕一（石神、8）及川徳（幸畑若葉、11）森内詔一（油川館町、12）瀧本嘉美（飛鳥、14）蝦名明（瀬戸子、13）

□優良町会員

124町会、146人

暖化対策協議会への参加、協力

- ・廃棄物等の不法投棄による通報協力
- ・野生動物への餌やり等の防止啓発活動を行い、鳥インフルエンザの防止に協力

福祉部会

- ・高齢者を励ます活動
- ・地域ネットワーク活動推進事業の促進
- ・町会等が行う福祉事業の支援並びに地域づくり事業の推進
- ・災害時要援護者支援運動
- ・市民生委員児童委員協議会との意見交換会

女性部会

- ・検診受診勧奨、広報活動
- ・交通安全運動推進・啓発
- ・町会女性役員（リーダー）研修会の開催
- ・町内女性の集いの開催

除排雪 市がアンケート

町会長から8件の意見・要望

市は、例年、前年度の除排雪事業に関する報告会を開催し、市町連と意見交換して来ましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、報告会を取り止め、除排雪に関する意見・要望について市町連役員、地区連合町会長計37人を対象に、書面によるアンケートを実施、7月末までに8件の回答がありました。意見・要望、令和元年度除排雪事業の実績は次の通りです。

■ 交差点付近に雪盛りをしないで

要望は①道路の真ん中を除雪するが、両側に塊を残さないようにしてほしい②当町会は高齢者が多いため、ゴミ収集所に雪を置いていかないようお願いする③住宅道路から幹線道路へ出る交差点の角の堆雪対策をもう少し臨機応変にお願いしたい。交通事故防止の観点からも必要と考える④住宅道路から幹線に出る角地やその他各角地に雪の盛り上げができ見通しが悪くなり、車・歩行者ともに危険で事故になりかねないのでやめてほしい。また、横断歩道、バス停前、クリーンボックス前への寄せ雪をやめてほしい⑤自由ヶ丘2丁目4番地の電話ボックスのある角のあたり、毎年、バス路線の除雪した雪塊が積み上げられ、交通に支障が出ている。除雪後の排雪にご配慮いただきたいと寄せ雪、雪盛りに関して5件ありました。他の3件は、昨冬は降雪量が少なかったことなどから、問題はなかった。例年通り、こまめな巡回で即応できる体制を維持してほしいという意見でした。

市は、これらの要望に対し①道路幅員の確保を優先するという考えの下、それぞれの道路の特性を勘案しながら、路線ごとの除雪の水準を明確化している。道路幅員の確保に努め、膝の高さ以上、人力で取り除くことが困難な雪塊が生じていないかどうかなど、除雪作業の仕上がり状況をパトロールにより注視し、必要に応じて除排雪業者を指導するなどの対応をして参りたい②ご意見のゴミ収集所を含め、パトロールの際に注視し、除排雪業者を指導するなどの対応をして参りたい③交差点付近は、除雪作業による寄せ雪のほか、車

線確保のための拡幅除雪により、堆積する雪が高くなることもある。パトロールにより状況を把握し、交通の安全を確保するため、適宜適切な実施に努めて参りたい④排雪時など必要に応じて雪盛り処理を行ない、視界を確保するように努めて参りたい。交差点の横断歩道部は、幹線からの寄せ雪などにより閉塞してしまうことがあり、人力除雪で対応してきたが、適切な処理が行なわれなかった箇所もあった。除排雪業者に適切な作業の徹底を指示して参りたい。機械除雪が困難なバス停周辺は、状況を把握し、人力除雪を実施して参りたい。クリーンボックス前の寄せ雪についても除排雪業者を指導するなどの対応をして参りたい⑤パトロールの実施、町会長や市民からの情報提供により、道路状況を把握の上、除排雪業者へ出動命令を出すなど、丁寧な除排雪に努めて参りたいと回答しました。

令和元年度除排雪の実績

令和元年度は最大積雪深38cm（12月6日）、累計降雪量264cm（例年の半分以下）で、青森地方気象台観測史上最小の記録となった。このため、除排雪経費は約18億2千万円（昨年度約35億7千万円）と直近10カ年で最小だった。雪に関する市民相談窓口への相談件数も1,019件で、平成17年に相談窓口を開設以降最も少なかった。

スマートフォンなどによる専用アプリを利用した相談システム「まちレポあおもり」は、除排雪に関して26件あった。

町会市民雪寄せ場事業の利用者は389件で、前年度から2件減少した。地域コミュニティ除排雪制度は15団体が利用した。

国の制度を利用し昨年度から進めている除雪ボランティア活動の普及・育成では、ボランティアとして801人が登録（うち学生数255人）、除雪ボランティアを行なう団体に除雪用具の支援を行なった（横内町会に安全ベスト100枚、スノーダンプ10台、ショベル10本。油川コミュニティ協議会にスノーダンプ10台）。

雪処理施設の整備状況については、現在佃地区で流・融雪溝を整備中のほか、一昨年度から篠田地区の調査業務を行なっている。

浜町緑地雪処理施設の利用はダンプトラック延べ4,616台（昨年度38,387台）だった。

令和元年度市政懇談会

「人口減少に対する 具体的取り組みは」

市総合計画をめぐり意見交換

市町連は1月20日(月)市福祉増進センター(しあわせプラザ)で令和元年度市政懇談会を開き、青森市総合計画などについて市と意見交換しました。

懇談会には市町連から加川幸男会長(当時)ほか33人、市からは小野寺晃彦市長ほか理事者5人が出席、加川会長、小野寺市長のあいさつの後、市からの情報提供として、企画部の小川徳久部長が、「青森市総合計画の概要」について説明しました(市総合計画の概要は次ページ)。

カーリング振興の検討を

意見交換では、市町連側から①人口減少に対する市の具体的な取り組みは②アリーナプロジェクトを含む青森操車場跡地の検討状況は③スポーツ振興について、青森桜マラソンの収支予算、業務委託運営する事業者の企画提案内容は。また、カーリングのチーム青森はオリンピックなどで大活躍した。このようなレガシーともいべき宝を今後どのようにすべきか検討してほしい④民生委員のなり手がなく、欠員が生じており、高齢化も進んでいるが、市の対策は⑤女性部の方に、相談員という名目で民生委員の手伝いをいただくのはどうか⑥避難行動要支援者は民生委員が多いが、災害時に対応できるのか。各地域で若い方に委嘱し、対応してはどうかと質問、意見を述べました。

若年層の定着に起業創業を支援

これに対し、市側は①転出者が多い若年層に対し、市内に仕事を見つける、起業するなど、市内で働きたいと思う方々を増やしていくことに特に力を入れており、具体的には、a 青森スタートアップセンターに起業創業の拠点を設け、起業創業される方を支援、b 企業された方と金融機関とのマッチング、c 駅前の商店街等で既存の空き店舗などを活用したりノバージョン、d 浅虫地区でまちづくり協議会と連携し古民家を活用したお試し移住交流体験事業-などの取り組みを進めてい



あいさつする小野寺市長

る②アリーナにはバスケットボールやバレーボールなどの試合の際は座席を3,500席程度、コンサートなどの際は5,000席程度設ける予定。防災機能として、4,000人の方が3日間暮らせる程度の食糧、生活必需品を備蓄。今後は、令和2年度に事業者の募集、選定を行う。多目的に利用できる緑地や既存道路の拡幅などの整備の準備工事を行う。新駅設置は、県、関係機関との協議を行い、早期実現に取り組む。令和3年度にアリーナ、駐車場、緑地広場などの設計に着手、設計工事期間は3年間程度を見込み、令和6年度にアリーナの供用開始を想定、国民スポーツ大会(令和7年)のリハーサル大会の開催を念頭に整備を進める。

民生委員の年齢要件を緩和

③全体の予算は約6,000万円。参加料で2,000万円、市の負担2,000万円、企業からの協賛金2,000万円を見込んでいる。内容は運営、警備、それ以外の費用も含め収支の中で収める。カーリングについて市は小中学生のカーリング教室、全国高等学校カーリング大会を実施している。スポーツコミッション青森のメンバーである県カーリング協会とも連携していく④民生委員の確保対策として、定年の年齢要件を75歳未満から78歳未満に緩和したほか、推薦準備会の年間スケジュールの事前通知や、民生委員募集の際のチラシの改善に努めている。今年度の3回目の推薦後には、欠員数が46名から30名に減る予定である⑤女性部に限らず、どういう手法で民生委員の皆さんの負担を和らげていくか課題として承りたい⑥災害時には、支援者自らの命を守っていただくのが大原則。その上で、防災訓練などの機会に、さまざまな災害の状況を想定して、避難経路、声掛けの順番などを確認していただく-と回答しました。

青森市総合計画の概要

■ 持続可能な都市づくりを目指す

青森市は2005年（平成17年）4月、浪岡町と合併、翌年10月に中核都市（県から保健所などの設置や都市計画などに関する権限の移譲を受けた都市。自主的、自立的、効率的なまちづくりを進めることができる）に移行、北東北の拠点都市として更なる発展を目指してまちづくりを進めてきた。しかし、人口減少、少子高齢化、労働人口の不足など市を取り巻く社会経済環境が大きく変化してきている。このような環境変化に対応し、人口減少に立ち向かうための新たなまちづくりの方向性として、多くの市民がこのまちで暮らし続けることが出来るようしごと創りに取り組むほか、持続可能な都市づくりを目指し、10年後の将来を見据えて、新たな総合計画（2019年から2028年）を作った。

市の人口は2000年（平成12年）には31万8,732人だったが、総合計画目標年次の2028年には24万5千人ほどになると見込まれている。市は人口

減少の影響及び次のような課題、すなわち①魅力ある仕事や労働力の不足②少子化の進展③多様化する地域課題・地方活力の維持④高齢化の進展・短命市⑤多発する自然災害、空き家等の増加⑥地球温暖化や海洋汚染－に直面している。

■ 市民一人ひとりが挑戦する街

そのため、まちづくりには、これらの課題を踏まえ、まちの活力は、常に新しいことへの挑戦から生まれるとの認識のもと、あらゆる分野において「市民一人ひとりが挑戦する街」を目指す。

この将来都市像の実現のため、①産業創出と担い手の確保②未来を支える人材の育成③連携の推進・安心な地域社会づくり④生涯現役の推進⑤持続可能な都市づくり⑥自然環境の保全－の6つの基本視点に立ってまちづくりを推進する。そして、この6つの分野を①しごと創り②まち創り③ひと創り④やさしい街⑤つよい街⑥かがやく街－と名づけ、分野ごとに施策の大綱を定めた。そして、それぞれ関連がある分野について、施策による成果を最大限発揮できるよう相互に連携しながら取り組んでいく。

横断歩道を2カ所整備

令和元年度交通安全施設整備

市町連が平成31年4月、信号機設置など交通安全施設整備について市へ要望していた件（51町会から89件の要望。市へ直接要望した町会、件数を含む）に対し、市が現地調査、関係者との合同検討会を行なった結果は次の通りでした（診断結果は市町連から要望を出していた町会へ連絡しました）。

□信号機設置（要望10件）

公安委員会へ上申4件、見送り6件

□交通規制等（要望13件）

対応済み3件、代替対応済み1件、対応予定1件、代替対応予定1件、公安委員会へ上申5件、見送り1件、対応困難1件

□横断歩道（要望7件）

代替対応済み1件、代替対応予定1件、見送り4件、公安委員会へ上申1件

□道路標識（要望5件）

代替対応済み2件、対応予定1件、公安委員会

へ上申1件、見送り1件

□ロードミラー（要望47件）

対応済み3件、代替対応済み1件、対応予定4件、代替対応予定10件、条件付対応予定8件、検討3件、見送り13件、対応困難2件、対応不可3件

□その他（要望3件）

対応予定3件

町会員にごみ袋を配布

褒懸団地町会

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、多くの町会が総会、役員会を書面によって実施し、年間の事業も大幅な見直しを行ないました。

褒懸団地町会（赤木長義町会長）は、書面による役員会を開き、緊急対策支援として、45ℓの青森市指定ごみ袋を、一世帯当たり50枚配布することを決定、町会費を納入している全町会員へ配布しました。この費用には、今年度の事業を見直し、町会ねぶた製作を中止にしたことから、ねぶた製作に予定していた経費を当てました。

商店街の魅力向上へ

令和元年度理事研修会

市町連は12月4日(水)、「商店街の現状について」をテーマに令和元年度理事研修会を、ラ・プラス青い森で開き、36人が出席、講師の市経済部経済政策課の堀真主幹が、市内の商店街の現状、取り組みなどに紹介しました。

講演の要旨は次の通りです。

かつて市内には30地区に商店街があったが、現在は15地区(浪岡地区を除く)に減少した。



39人が出席した理事研修会

新町商店街の空き地・空き店舗率は、平成21年(2009年)には21%だったが、平成30年(2018年)には7.6%まで下がった。現在は、青森市と同規模の市の商店街(八戸市12.1%、山形市11.1%)と比べると低くなっている。

市は、市総合計画で①商店街の機能充実②商店街の魅力向上-に取り組んでいる。

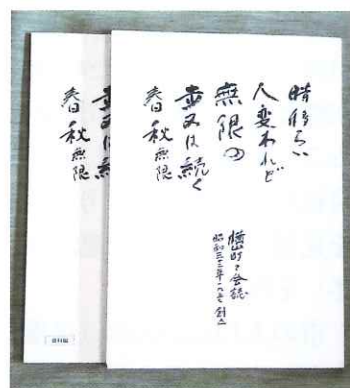
商店街の機能充実では、現在、事業を継承する人がいないことが商店街の大きな課題になっていることから、事業を引き継ぐ人の紹介、課題解決のための新たな事業を、県と連携して支援している。また、将来開業を目指す人に対して、パサージュ広場で実践的な経営指導などを通じ、商店街の新たな担い手となる事業者の育成を図るベンチャー支援事業を行っている。

商店街の魅力向上では、空きビル・空き店舗を活用し、新たなビジネスの創出、地区の魅力・価値の向上を図るリノベーション(刷新)まちづくり推進事業をスタート。同事業は全国50カ所の都市で展開されている。にぎわい創出や魅力ある商店街づくりでは商店街も独自の取り組みをしており、これまで青森駅前周辺の商店街が連携した「AOMORI 春フェスティバル」、「あおりバル街」、柳町通りの「Star light JAZZ」、昭和通りの「AOMORI COFFEE FESTIVAL」など盛り上がりを見せている。

青森駅前周辺地区は、平成30年に市役所の「総合窓口」をアウガに新設してから、商工会議所会館、ダイワロイネットホテル、東奥日報新町ビル、新中央埠頭クルーズターミナルがオープン、1月から市役所新庁舎が供用開始、青森駅自由通路、新町1丁目と中新町山手地区での再開発など最近動きが活発になってきている。市の総合計画の目標は「市民一人ひとりが挑戦する街」になること。市としても精一杯支援していきたい。

横山町会 町会誌を発刊

横山町町会(齊藤裕一郎町会長)は7月、地域の歴史、文化などをまとめた町会誌(2分冊、町会誌A4判、151ページ、同資料編A4判、93ページ)＝写真＝



を発刊、町会員に配布しました。

南は青い森鉄道線、北は旧線路通りに沿い、市中心部近くに位置する同町会は、昭和32年(1957年)創立、現在の世帯数は400を数えます。

町会誌は主に、同町会の現代史1～4、浦町村のあゆみと横山町、市民の学びを支えてきた文京地区・横山町、横山町と青森空襲と初代民選市長横山實など、同町会に関する論文で構成、四方30センチ大の国土地理院空中写真4枚(昭和23、37、50年、平成25年)も付いています。

編集後記

この春から、新型コロナウイルス感染症の広がりにより、不自由な生活を強いられています。市町連も感染防止のために、総会開催をはじめ多くの人が集まる行事を取り止めました。町連だよりの発行も遅れました。ウイルスの感染を防ぐため3密(密閉、密集、密接)を避けるよう呼び掛けられています。しかし、人との交流が減ることで心身の衰えが進む、とりわけ高齢者には影響が大きいともいわれます。孤立して健康を損なわないよう、3密を避けながら、人との交流も忘れないようにしたいと思います。(千)